

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地															
日本工学院八王子専門学校		1987/3/27		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地															
学校法人片柳学園		1956/7/10		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111															
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士														
文化・教養	芸術専門課程		声優・演劇科			平成28年文部科学省認定	-														
学科の目的	本学科はその創設から、「声優」「俳優」「タレント」に必要なスキルはまったく同じであると考え、「演劇表現を行う者」つまり【役者】の『基礎力』を高めることを最重要視してきており、演劇表現の実践教育を通して、豊かな情感、筋力・体力、コミュニケーション力を養い、今後ますます多様化する現場において求められる『対応力』と現代社会に適応するための『人間力』の習得を目指します。																				
認定年月日	2020年3月25日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
2年	昼間	1,700	290	220	0	0	3,760														
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数															
160人		132人	3人	4人	22人	26人															
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下不合格 P:単位認定																
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:7月22日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月4日 ■学年末:3月22日～3月31日			卒業・進級条件	【進級要件】 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 【卒業要件】 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者に対しては、当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。			課外活動	■課外活動の種類 舞台公演、各種パフォーマンス発表、卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭、各種イベント ■サークル活動: 有																
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) (株)文学座、(株)ジャパンアクションエンタープライズ、(株)イエローキャブ、(株)スーパーエキセントリックシアター、(株)宝映テレビプロダクション、(株)麗タレントプロモーション、東洋ワーク(株) ■就職指導内容 個人面談、合同企業説明会、劇団・プロダクション説明会、合同審査会(学内オーディション)、模擬面接 ■卒業生数 81 人 ■就職希望者数 18 人 ■就職者数 16 人 ■就職率 : 89 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 20 % ■その他 ・デビュー(養成所・研究所): 63人 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビジネス能力検定3級</td> <td>③</td> <td>81</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>ビジネス著作権検定BASIC</td> <td>③</td> <td>81</td> <td>77</td> </tr> </tbody> </table> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	ビジネス能力検定3級	③	81	49	ビジネス著作権検定BASIC	③	81	77
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																		
ビジネス能力検定3級	③	81	49																		
ビジネス著作権検定BASIC	③	81	77																		

中途退学の現状	<p>■中途退学者 0名 ■中退率 0.0%</p> <p>令和2年4月1日時点において、在学者137名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者137名(令和3年3月31日卒業者を含む)</p> <p>■中途退学の主な理由</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と主任/科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も適時行っている。</p>
経済的支援制度	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有</p> <p>・片柳学園入学学金免除制度・若きつくりびと奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度 ・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象</p>
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価:有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
当該学科のホームページURL	<p>https://www.neec.ac.jp/department/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

年度毎にカリキュラムの見直しを行うため、関係分野における企業・団体等へのヒアリングを適宜実施し、実務に関する知識、技術を調査しカリキュラムに反映させている。
また授業科目のシラバスにおいても、科目担当教員、講師と連携企業との間で意見交換を行い、学習成果評価等の検証から、授業内容や評価方法を社会情勢に対応し見直しを行っている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大久保 皓生	株式会社アーティストコーディネーター代表取締役	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
植田 真介	文学座 主事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	①
小林 敬宜	松竹芸能株式会社 取締役	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
坪井 勇次	日本工学院八王子専門学校 キャリアサポートセンター センター長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
長谷川 浩司	日本工学院八王子専門学校 声優・演劇科 科長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9～12月・1～3月)

(開催日時(実績))

第1回 2020年12月14日 16:00～17:30

第2回 2021年 3月 1日 10:30～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会において、業界が求める人材のイメージの意見交換をしつつ、現在のカリキュラムが業界で求める人材育成に適しているかを確認している。また、業界の動向から指導方法についても検討する場となっている。

具体的には、業界では新人のコミュニケーション低下が進んでいる現状を受けて、実習においてコミュニケーション能力を高めるワークショップや声優・俳優業界へのスキルアップを今後検討課題としている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な指導を受けるにあたって、関連分野での実績や、知識、技術、制作管理能力に基づく指導力を有する講師の派遣協力が得られる企業を選定し、基礎力重視の教育方針で授業シラバスの作成から連携をとる。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

出講している現役俳優、または現役声優講師の所属するカンパニー・劇団で使用している舞台の台本や、収録現場で使用しているアフレコ台本、楽譜、音源を用いて、現場に限りなく近い演技指導を実施することが出来ている。専任教員は、日常的に現場の俳優や声優と接しているため、授業計画や評価方法、学生指導上の問題点、改善案などは常に情報共有している。講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
卒業制作	2年次の卒業制作。卒業要件のひとつ。舞台公演を制作し、これまで学んだ成果を発表することを目的とする。講師は、東宝芸能株式会社より派遣とする。	東宝芸能株式会社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、講義と実習、演習の精度を高めるため、コロナ渦での移り変わりゆく、芸能界およびライブエンターテインメントの状況を把握するべく、業界で活躍する本校講師との意見交換や関連企業による講義の拝聴、アニメ・ゲームイベント、講習会への参加のほか、毎年4回の芸術鑑賞会を実施する。芸能スキル向上のため、一般社団法人日本演出家協会、オンライン研修、開校講座に参加。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名 「 ウイズコロナにおけるオーディション対策と心得 」 (連携企業等: 松竹芸能株式会社)

期間: 2021年3月1日(月) 対象: 声優・演劇科 教員

内容: コロナ渦における学生の進路決定率を上げるため、オーディションの現状と対策、そして学生指導方法。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名 「 オンライン授業の在り方 」 (連携企業等: クリーク・アンド・リバー社)

期間: 2020年10月14日(木) 対象: クリエイターズカレッジ 教員

内容: 早稲田大学におけるオンライン指導方法、実例や解決策等を共有し、今後の学生指導に繋げる。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名 「 戯曲演出講座 」 (連携企業等: 一般社団法人日本演出家協会)

期間: 2021年7月25日(日) 対象: 声優・演劇科 教職員

内容: 戯曲を読み解きオンラインでの演出プランを考案する「演出」を学びます。また制作における舞台美術、衣装、音響などの演出プランなど全てをオンライン講座で学び、デジタル化に対応。今後の学生指導に繋げる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名 「 4G→5Gでエンタテインメント産業の構造がどう変わるか 」 (連携企業等: クリーク・アンド・リバー社)

期間: 2021年8月31日(火) 対象: クリエイターズカレッジ 全教員

内容: ハリウッドにて、映画の投資や音楽・スポーツのプロモーター等の経験者から、メディアとエンタテインメントの経営・法を専門に学ぶ。テレビ・映画・音楽・スポーツ・イベント等の幅広いテーマで、4G→5Gでエンタテインメント産業の構造を学び、これからの教育に活かす。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	(2)運営方針(3)事業計画(4)運営組織(5)人事・給与制度(6)意思決定システム(7)情報システム
(3)教育活動	(8)目標の設定(9)教育方法・評価等(10)成績評価・単位認定等(11)資格・免許取得の指導体制(12)教員・教員組織
(4)学修成果	(13)就職率(14)資格・免許の取得率(15)卒業生の社会的評価
(5)学生支援	(16)就職等進路(17)中途退学への対応(18)学生相談(19)学生生活(20)保護者との連携(21)卒業生・社会人
(6)教育環境	(22)施設・設備等(23)学外実習・インターンシップ等(24)防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	(25)学生募集活動(26)入学選考(27)学納金
(8)財務	(28)財務基盤(29)予算・収支計画(30)監査(31)財務情報の公開
(9)法令等の遵守	(32)関連法令、設置基準等の遵守(33)個人情報保護(34)学校評価(35)教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	(36)社会貢献・地域貢献(37)ボランティア活動
(11)国際交流	

(3)学校関係者評価結果の活用状況

ICT教育を全カレッジ全学科の必須の基盤教育として推進していく。これを実現していくために、東京工科大学と連携して教育内容のIT化を推進していく。教育方法のIT化の推進を実現するため、今年度においては、特にICTを活用した先進的で分かり易い教材・教育方法等の開発・実践を進める。

コロナ禍でのオンライン授業などに対応するため、利用し易いIT環境を順次整備を進めている。また、対面授業においても専門家からの意見を参考に、引き続き感染防止対策に万全を尽くしていく。

教員もコロナ禍における授業体制に対応するスキル向上のため、今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を積極的に活用できるように教員の研修体制を整えていく。

地域連携・高専大連携、国際連携等を積極的に推進していく。

募集活動においては、オンライン面談(実施済み)・オンライン出願なども実施していく。また、経済的な問題を抱えている学生へは、高等教育の修学支援新制度を周知しながら修学継続できるような支援策を実施していく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	ミュージック企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	デザイン企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	テクノロジー企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	スポーツ企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	医療企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	医療・保育団体等委員

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 令和3年7月31日

URL: <http://www.nec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和2年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

(3) 情報提供方法

ホームページ

URL: <http://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(芸術専門課程声優・演劇科)令和3年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネススキル I	芸能界を含む、社会において必要な一般常識やマナーを習得し、人間力を養います。	1・前	15	1	○			○		○		
2	○			ビジネススキル II	芸能界を含む、社会において必要な一般常識やマナーを習得し、人間力を養います。	1・後	15	1	○			○		○		
3		○		演劇概論 I	演劇史をはじめ、演技を学ぶ上で必要な知識を学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
4		○		演劇概論 II	演劇史をはじめ、演技を学ぶ上で必要な知識を学びます。	1・後	15	1	○			○		○		
5	○			演技研究 I	映画、テレビ、舞台など、様々な作品に触れながら演技を研究実践します。	1・前	60	4	○			○	○	○		
6	○			演技研究 II	映画、テレビ、舞台など、様々な作品に触れながら演技を研究実践します。	1・後	40	2	○			○	○	○		
7	○			基礎演技 I	個々の資質を伸ばしながら、呼吸法・発声法・発音訓練、それに伴う身体訓練などを含む演技の基礎を学びます。	1・前	105	3			○	○		○		
8	○			基礎演技 II	個々の資質を伸ばしながら、呼吸法・発声法・発音訓練、それに伴う身体訓練などを含む演技の基礎を学びます。	1・後	70	2			○	○		○		
9	○			基礎演技 III	個々の資質を伸ばしながら、呼吸法・発声法・発音訓練、それに伴う身体訓練などを含む演技の基礎を学びます。	1・前	105	3			○	○			○	
10	○			基礎演技 IV	個々の資質を伸ばしながら、呼吸法・発声法・発音訓練、それに伴う身体訓練などを含む演技の基礎を学びます。	1・後	70	2			○	○			○	
11	○			舞踊 I	日本舞踊を通じて和装の着付けから所作、礼儀作法を学びます。	1・前	60	2			○	○			○	
12	○			舞踊 II	日本舞踊を通じて和装の着付けから所作、礼儀作法を学びます。	1・後	40	1			○	○			○	
13		○		ダンス I	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指します。	1・前	60	2			○	○			○	
14		○		ダンス II	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指します。	1・後	40	1			○	○			○	
15		○		ダンス III	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指します。	1・前	60	2			○	○			○	
16		○		ダンス IV	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指します。	1・後	40	1			○	○			○	
17		○		アクション I	殺陣・アクションを学ぶための体力作りから基礎技術までを学びます。	1・前	60	2			○	○			○	

18	○	アクションⅡ	殺陣・アクションを学ぶための体力作りから基礎技術までを学びます。	1・後	40	1			○	○			○	
19	○	ヴォーカルⅠ	様々な種のヴォーカルに取り組み、演技者に必要な音感・リズム感・表現力を養います。	1・前	60	2			○	○			○	○
20	○	ヴォーカルⅡ	様々な種のヴォーカルに取り組み、演技者に必要な音感・リズム感・表現力を養います。	1・後	40	1			○	○			○	○
21	○	ワークショップⅠ	声優・俳優・タレントに必要なスキルをワークショップで学びます。	1・前	60	2			○	○			○	○
22	○	ワークショップⅡ	声優・俳優・タレントに必要なスキルをワークショップで学びます。	1・後	40	1			○	○			○	○
23	○	ワークショップⅢ	声優・俳優・タレントに必要なスキルをワークショップで学びます。	1・前	60	2			○	○			○	○
24	○	ワークショップⅣ	声優・俳優・タレントに必要なスキルをワークショップで学びます。	1・後	40	1			○	○			○	○
25	○	舞台総合実習	1年次の集大成として修了公演を行います。	1・後	120	4			○	○			○	○
26	○	キャリアデザインⅠ	声優・俳優・タレント業界の知識を学びます。また、進路に関しての情報交換をはじめ、セルフプロデュース、オーディション対策などを行います。	2・前	15	1	○			○			○	
27	○	キャリアデザインⅡ	声優・俳優・タレント業界の知識を学びます。また、進路に関しての情報交換をはじめ、セルフプロデュース、オーディション対策などを行います。	2・後	15	1	○			○			○	
28	○	作品研究Ⅰ	映画、テレビ、舞台など、多くの作品に触れ、様々な角度から研究します。また、映画・テレビ・演劇などの業界人による講演を通じて知識を深めます。	2・前	60	4	○			○			○	
29	○	作品研究Ⅱ	映画、テレビ、舞台など、多くの作品に触れ、様々な角度から研究します。また、映画・テレビ・演劇などの業界人による講演を通じて知識を深めます。	2・後	40	2	○			○			○	
30	○	舞台実習Ⅰ	舞台演技の表現能力の向上を図り、集団で舞台芸術作品を制作するプロセスを実践的に学びます。	2・前	105	3			○	○			○	○
31	○	舞台実習Ⅱ	舞台演技の表現能力の向上を図り、集団で舞台芸術作品を制作するプロセスを実践的に学びます。	2・後	70	2			○	○			○	○
32	○	舞台実習Ⅲ	舞台演技の表現能力の向上を図り、集団で舞台芸術作品を制作するプロセスを実践的に学びます。	2・前	105	3			○	○			○	○
33	○	舞台実習Ⅳ	舞台演技の表現能力の向上を図り、集団で舞台芸術作品を制作するプロセスを実践的に学びます。	2・後	70	2			○	○			○	○
34	○	アフレコⅠ	アフレコやプレスコ実習を中心に演技と録音スタジオでの技術を学びます。	2・前	105	3			○	○			○	○
35	○	アフレコⅡ	アフレコやプレスコ実習を中心に演技と録音スタジオでの技術を学びます。	2・後	70	2			○	○			○	○
36	○	声優演技Ⅰ	声優に求められる演技表現を身体表現も合わせて学びます。	2・前	105	3			○	○			○	○
37	○	声優演技Ⅱ	声優に求められる演技表現を身体表現も合わせて学びます。	2・後	70	2			○	○			○	○

38	○	ナレーションⅠ	ナレーションやドラマリーディングなどの原稿を用いて、声の表現力を学びます。	2・前	60	2			○	○		○	○
39	○	ナレーションⅡ	ナレーションやドラマリーディングなどの原稿を用いて、声の表現力を学びます。	2・後	40	1			○	○		○	○
40	○	アナウンスⅠ	フリートークやインタビュー、原稿読みなど、いかにわかりやすく的確に内容を伝えていくかを学びます。	2・前	60	2			○	○		○	○
41	○	アナウンスⅡ	フリートークやインタビュー、原稿読みなど、いかにわかりやすく的確に内容を伝えていくかを学びます。	2・後	40	1			○	○		○	○
42	○	応用演技Ⅰ	演技者としての表現能力の向上を図るとともに応用力を学びます。	2・前	60	2			○	○		○	
43	○	応用演技Ⅱ	演技者としての表現能力の向上を図るとともに応用力を学びます。	2・後	40	1			○	○		○	
44	○	舞踊Ⅲ	日本舞踊を通じて品や礼節を身につけます。	2・前	60	2			○	○			○
45	○	舞踊Ⅳ	日本舞踊を通じて品や礼節を身につけます。	2・後	40	1			○	○			○
46	○	ダンスⅤ	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指し、より高度な技術を身につけます。	2・前	60	2			○	○			○
47	○	ダンスⅥ	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指し、より高度な技術を身につけます。	2・後	40	1			○	○			○
48	○	ダンスⅦ	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指し、より高度な技術を身につけます。	2・前	60	2			○	○			○
48	○	ダンスⅧ	バレエ・ジャズダンスなどを通じて、身体表現方法を学びながら柔軟、体幹を鍛え、美しい姿勢を目指し、より高度な技術を身につけます。	2・後	40	1			○	○			○
50	○	アクションⅢ	殺陣・アクションを芝居に取り入れた表現技術を学び、さらには立ち回りの演出プランを研究実践します。	2・前	60	2			○	○			○
51	○	アクションⅣ	殺陣・アクションを芝居に取り入れた表現技術を学び、さらには立ち回りの演出プランを研究実践します。	2・後	40	1			○	○			○
52	○	ヴォーカルⅢ	様々な種のヴォーカルに取り組み、歌の世界観を理解し、歌唱力と表現力を高めることを目標とし、成果を発表します。	2・前	60	2			○	○			○
53	○	ヴォーカルⅣ	様々な種のヴォーカルに取り組み、歌の世界観を理解し、歌唱力と表現力を高めることを目標とし、成果を発表します。	2・後	40	1			○	○			○
54	○	ヴォーカルⅤ	様々な種のヴォーカルに取り組み、歌の世界観を理解し、歌唱力と表現力を高めることを目標とし、成果を発表します。	2・前	60	2			○	○			○
55	○	ヴォーカルⅥ	様々な種のヴォーカルに取り組み、歌の世界観を理解し、歌唱力と表現力を高めることを目標とし、成果を発表します。	2・後	40	1			○	○			○
56	○	ミュージカル実習Ⅰ	ヴォーカルを中心に、演技・ダンスを総合的に取り入れた表現を学びます。	2・前	105	3			○	○			○
57	○	ミュージカル実習Ⅱ	ヴォーカルを中心に、演技・ダンスを総合的に取り入れた表現を学びます。	2・後	70	2			○	○			○

58	○	演劇表現演習Ⅰ	現代演劇やミュージカル、伝統芸能、お笑いなど様々な演劇表現を学びます。	2・前	60	2			○	○	○	○	○	
59	○	演劇表現演習Ⅱ	現代演劇やミュージカル、伝統芸能、お笑いなど様々な演劇表現を学びます。	2・後	40	1			○	○	○	○	○	
60	○	企画制作演習Ⅰ	観客や視聴者を意識した芸術作品を企画し制作することを学びます。	2・前	105	3			○	○	○	○	○	
61	○	企画制作演習Ⅱ	観客や視聴者を意識した芸術作品を企画し制作することを学びます。	2・後	70	2			○	○	○	○	○	
62	○	シナリオⅠ	シナリオ・戯曲・台本を、声を出して読む力を学びます。	2・前	60	4	○			○		○	○	
63	○	シナリオⅡ	シナリオ・戯曲・台本を、声を出して読む力を学びます。	2・後	40	2	○			○		○	○	
64	○	卒業制作	卒業制作作品に出演します。(他学科制作のアニメ・CG・ゲーム・映像・イベントほかを含む)	2・後	120	4			○	○	○	○	○	○
65	○	卒業研究	個々に研究テーマを設定し、卒業論文にまとめ発表します。	2・後	120	8	○			○		○		
66	○	インターンシップA	映画、テレビ、舞台、イベント等の学外の出演を通して実践的な知識や技術、仕事に対する姿勢を学びます。	2・通	240	8			○			○	○	
67	○	インターンシップB	映画、テレビ、舞台、イベント等の学外の出演を通して実践的な知識や技術、仕事に対する姿勢を学びます。	2・通	120	4			○			○	○	
68	○	インターンシップC	映画、テレビ、舞台、イベント等の学外の出演を通して実践的な知識や技術、仕事に対する姿勢を学びます。	2・通	60	2			○			○	○	
合計					68科目				4270時間(145単位)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業時に必修科目950時間(34単位)および選択科目750時間(22単位)以上取得し、合計1700時間(56単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	15週	